

2011
10月25日
(年7回25日発行)
第419号

緑化樹木
の情報紙



昭和54年12月7日第三種郵便物認可

発行所

社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL (03)3586-7361 FAX (03)3586-7577
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。
年間購読料 5,000円

調査結果の概要

図-1 樹種群別の供給可能量 (単位:千本・鉢)
[平成23年度:53,191千本・鉢]

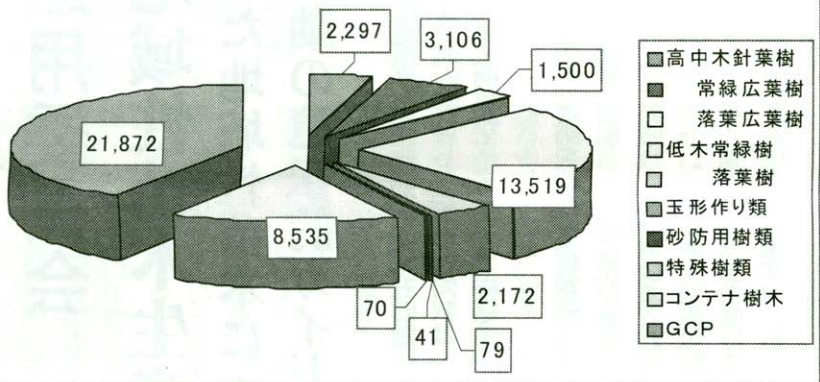
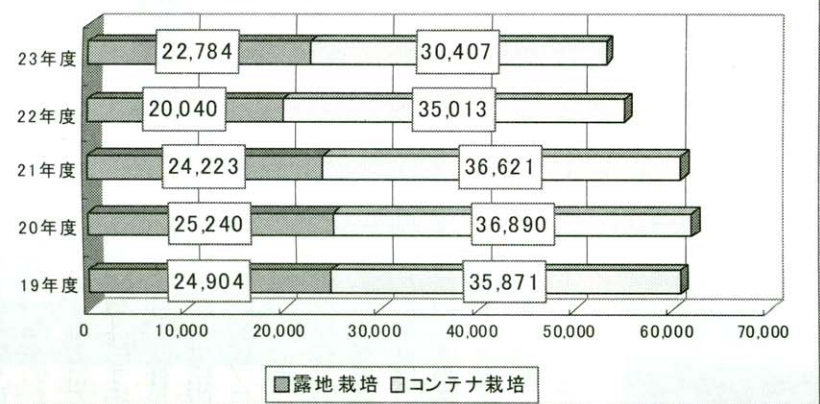


図-2 露地・コンテナ栽培の推移 (単位:千本・鉢)



社団法人 日本植木協会 平成二十三年 供給可能量 調査の結果報告

平成二十三年度の供給可能量は五、一三九万本となり、対二十二年比(五、五〇五万本・九六・六%)と若干の減少となっている。ピーク時(平成六年度、一億七、八〇〇万本)からの減少傾向は依然止まらずに続いている(図-1)。樹種群別内訳は、グラウンドカバープランツ(GCP)が最も多く全体の四一・一%と四割を占め、次に低木常緑樹が四分の一の二五・四%、三番目にコンテナ樹木が二六・〇%の順となる。露地栽培物のシェアは四一・八%に対し、コンテナ栽培物のシェアは五七・二%となっている。

主要な樹種群について種類別の内訳をみると、GCPでは、タマリユウ三八〇万鉢(GCP全体の一七・四%)、シバザクラ類二二〇万鉢(同二〇・九%)、コクマザサ一四二万鉢(同一六・五%)の構成となる。低木常緑樹ではサツキ五五六万鉢(低木常緑樹全体の四一・二%)、オオムラサキツツジ一七二万鉢(同二二・六%)、ヒラドツツジ二二二万鉢(同九・〇%)が上位三樹種を構成している。コンテナ樹木は、Chamaeflora、フィリフェラ、オー

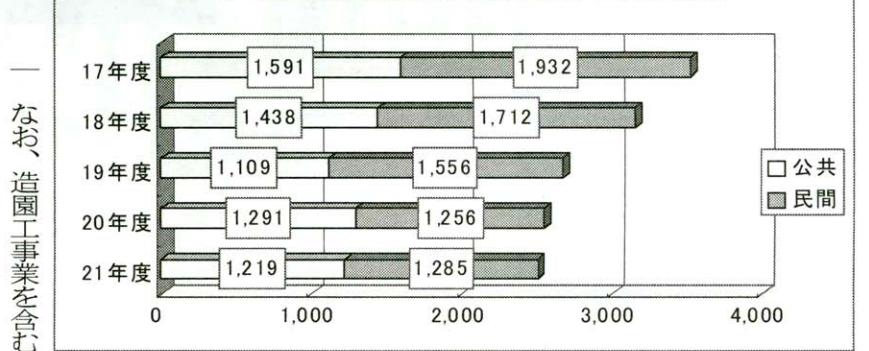
の内訳は、高中木一三三・九%、低木一〇六・五%となり、両方ともすべての樹種群で増加、コンテナ栽培物は樹木九三・一%、GCP八四・六%となっていることから、露地栽培物の増勢が全体の減少を弱めている。

需要の動向

建設工事施工統計調査(国土交通省)によると、平成二十一年度の造園工事完成工事高は四、五八八億円(前年度に比べ三・四%減、平成十五年より六年連続して減少している。このうち、造園工事業種が元請で受注している金額は一五〇四億円(前年度比一七・七%減)で、元請比率は四・六%を占める。元請比率は前年度に比べ一・〇ポイント上昇となる。完成工事高は平成五年度以降でみると、平成九年度まで一兆円台、平成十三年度まで九千億円台、平成一七年度まで

七千億円台、平成十九年度まで五千億円台と推移し、平成二十年度から四千万円台へ落ち込んでいる。また、平成二十一年度の元請受注額を発注者別にみると、公共は一、二二九億円(四八・七%)、民間(五一・三%)となり、昨年度に公共側に振れたシェアが再び民間のウェイトを高める結果となる(図-3)。

図-3 発注者別元請完成工事高の推移 (単位:億円)



総合工事業八業種全体で見ると、平成二十一年度の元請比率は七五・〇%、公共と民間の比率は三三・九%・六六・一%となっている。公共工事の全体的状況を「公共工事前払金保証統計(北海道・東日本・西日本建設業保証)」によって検討する。

平成二十二年の件数は二七〇、五〇五件、前年度に比較し七・六%の減少、請負金額は一兆二、八二七億円、前年度に比べ八・八%減と低減している。請負金額は二十年度から一時的に回復したものの、平成二十一年度まで二兆円台、平成一五年度まで一五兆円台、平成一九年度以降はほ

ぼ一兆円台を横這いで推移している。民間需要について、一年間に新たに造成された住宅用地の供給量を把握する住宅用地完成面積調査(国土交通省)によると、平成二十一年度の民間(一、八五六ha、七五・八%)と公共(五九一ha、二四・二%)を合わせた総数は、二、四四七haとなっている。最近一〇年間の推移をみると、平成二十二年まで五千ha台、平成一三・一七年度は三千ha台、平成一八・一九年度は二千ha台、平成二十年は三千ha台へ回復したものの、再び二千ha台へ下落、この一〇年間の最低となる。平成二十一年度の工事一件当たり完成面積は、一、六二三㎡、平成一四年度以降の拡大基調を維持している。一件当たり面積は増加していることから、潜在的な植栽可能面積は確保しやすいと考えられる。

平成二十三年 植生アドバイザー 育成事業開催

本協会植生調査委員会は、八月三十一日から九月三日にかけて植生アドバイザー育成事業のセミナーを群馬県川場村で開催した。開催初日は台風12号の接近情報があり、大島から参加予定二名の方が、航路欠航によりやむを得ずキャンセルとな

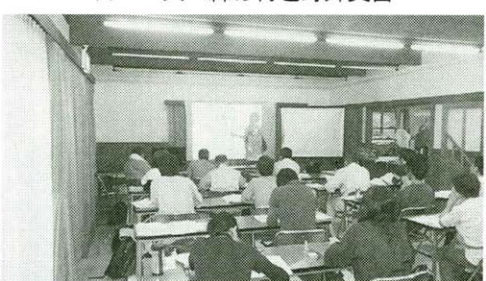
ったが、三九名が北は北海道/札幌、南は九州/福岡・熊本・大分から参加して催行した。初日は、全員が集合したのち、上条委員長を中心にオリエンテーション、講師代表・中村先生のセミナーの骨子、東京農大・関岡先

生の安全講習を聴講したのちに、各コースごとに講義場所に移動してカリキュラムに移った。講義終了後、食堂において午後七時から夕食後に参加者の自己紹介を行って、場の雰囲気をつなげた。

前述のとおり、台風接近により、台風状況の予想道路と雨量等を把握しながら、カリキュラムのやりくりをして、雨の少ない時間帯を縫って野外調査に出たり、講義室での座講等に変更してカリキュラムの消化をした。夕食は、恒例のバーベキューを開催し、昨年末まではスタッフが全てを対応したが、今年からは各コースごとに焼き手から配膳までをグループ



Aコース 森の村と野外実習



Aコース座講風景

最終日は、朝から台風進路、鉄道・航空等交通の状況等を細目にチェックして当初の解散時間を一時間早めることとして、全員が昼食後に食堂において上条委員長、中村先生、スタッフ等が挨拶をして宿舎バスや

また、この育成事業は環境省と農水省の「人材認定等事業」に育成事業として登録されていますが、本年十月開催の認定試験も実施して一定の条件を満たしたうえで、二十五年春以降に人材認定等事業の「認定事業」として登録申請を致しますので、併せてご期待くださるようお願いいたします。

今年度のセミナーの参加者に関する特徴としては、初級のAコースに協会関係の方々参加が二十名中十一名と昨年の同コース協会員参加十七名中五名を大きく上回ったのが特徴であった。

なお、平成二十四年のセミナー開催は八月二十九日(水)九月一日(土)の予定しておりますので、ふるってのご参加をお待ちしております。